

## 福島第一原子力発電所における汚染水問題の 早期解決を求める要請書

東京電力福島第一原子力発電所の汚染水問題は、増え続ける汚染水に対し有効な対策が講じられないまま、新たな漏えいや機器の人為的な操作ミスによるトラブルが頻発するなど、東京電力のずさんな汚染水管理に県民は強い憤りと不安を感じている。

汚染水対策では、現在、増え続ける汚染水を抑制するため地下水バイパスによる海洋放出を実施しているところであるが、漁業者が苦渋の決断で放出を受け入れたことを重く受け止め、徹底した監視と情報開示を強く求めるものである。

また、地下水バイパスのほか、凍土遮水壁と多核種除去設備（ALPS）が、汚染水対策の柱と位置付けられているが、遮水壁は、建屋内の汚染水の逆流や自然災害への備えなど設置後の安全性に不安要素が残っていることから、万全の対策を講じるよう強く求めるものである。更にALPSは、度重なるトラブルにより一時期3系統すべてで処理ができない状態になるなど、本年4月から予定していた本格稼働が大幅に延期され、汚染水処理計画に期待をかけていた県民の思いを裏切る結果となった。

汚染水問題は、県民生活や県内産業に大きな影響を及ぼしているばかりか、風評被害の払拭を始めとした本県復興の取組みへの大きな妨げとなっており、もはや東京電力だけで対応できる問題ではないことは明らかである。

よって、国が前面に立ち、総力を挙げて、汚染水問題の解決に取り組むよう、福島県内町村議会の総意として強く要請する。

平成26年7月8日

(経済産業大臣・環境大臣 宛)

福島県町村議会議長会  
会長 八島博正

## 東京電力福島第一原子力発電所における 汚染水問題の早期解決を求める要請書

東京電力福島第一原子力発電所の汚染水問題は、増え続ける汚染水に対し有効な対策が講じられないまま、新たな漏えいや機器の人為的な操作ミスによるトラブルが頻発するなど、ずさんな汚染水管理に県民は強い憤りと不安を感じている。

現在、増え続ける汚染水を抑制するため、地下水バイパスを実施し、更に凍土遮水壁の建設を進めているが、地下水バイパスについては、漁の本格再開を目指し試験操業を続けている漁業者が「苦渋の決断」で放出を受け入れたことを重く受け止め、徹底した監視と計測数値の正確かつ迅速な公表等、我々の思いを裏切ることのないよう緊張感のある対応を強く求めるものである。また、凍土遮水壁については、建屋内の汚染水の逆流など設置後の安全性を不安視する指摘もあることから、安全で効果的に機能するよう万全な対策を講じるよう強く求めるものである。

更に、汚染水処理の切り札とされている多核種除去設備（ALPS）は、度重なるトラブルにより一時期3系統すべてで処理ができない状態になるなど、本年4月から予定していた本格稼働が大幅に延期されたことは、汚染水の処理計画に期待をかけていた県民の思いを裏切る結果となっている。

汚染水問題は、我々の生活や県内産業に大きな影響を及ぼしているばかりか、風評被害の払拭をはじめとした本県復興の取組みへの大きな妨げとなっている。

よって、総力を挙げて早急に汚染水問題の解決を図るよう、福島県内町村の総意として強く要請する。

平成26年7月8日

(東京電力 宛)

福島県町村会  
会長 大塚 節雄

福島県町村議会議長会  
会長 八島 博正